

# 目標1 活気

## —活気のある河合町になって欲しい—

《施策の進捗状況》

- A: KPIは既に達成
- B: 順調
- C: やや遅れている
- D: 遅れている
- E: 施策の見直し



数値目標	指標項目	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値
	社会増減 (転入転出数の差)	H25	△73人/年	△51人/年	△63人/年	0人/年

番号	重点施策	重要業績評価指数(KPI)	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値	施策概要	自己評価		自己評価の推移の理由	H29取組状況 (町の考え等)	担当課
			H28	H29									
1	転入者支援事業(Uターン促進)	転入者数	H26	527人/年	511人/年	474人/年	600人/年	転入者に対して一定期間支援を行い、社会流動による人口増加を促します。さらに、近居、同居の場合は支援を加算し、Uターンを促進します。	E	E	現在に至っても地方創生交付金の対象となる見込みが無い為、町単独での実施は困難のため。	転入者に対し個人町民税又は固定資産税の一定割合を振興券により補助する事業について、国の交付金の対象となることが明確となったことから、町単独での実施が不可避となりましたが、本事業の実施による転入者の増加効果が明確に見込めない中、町単独での実施は財政負担が大きく、実施は困難と考えます。今後、交付金の対象となる等の見直しがあれば再度検討をしたいと考えます。	税務課 地域活性課
2	特色ある教育 ほんまものの英語教育	小学校における「ほんまものの英語」授業と実施学年	-	-	-	-	1年から4年の各クラス	特色ある教育の一つとして、語学教育を進めていきます。「体で覚える英語」、「This is a pen.」を日本語に訳さないで理解できる英語教育を、就学前から義務教育を終える中学校までの児童生徒を対象に、連続性、継続性をもって実践していきます。	D	C	学校以外で、子どもや保護者との交流を持つことができたため。	学校の外国語指導助手(ALT)が学校の授業だけにとどまらず、BBQ大会や通学合宿などの地域の行事に積極的に参加し、子どもや保護者が生きた英語に接することができました。やはり英語で話す機会を増やしていく必要があり、今後は、人材の確保を模索するとともにシステマ的な展開を目指します。	教育総務課
3	ICT教育環境の整備	「自分で課題を立てて調べたことを発表する学習に取り組んでいるか」の項目の「どちらかといえば当てはまる」以上の割合	H27	59.20%	51.10%	54.00%	80%	グローバル化が進む中で、時代を担う若者たちが国際社会で活躍し、生き抜く力としてICTを活用した教育は重要で、時間、空間的な距離を超えた「情報の共有化」など、ICTの積極的な活用により革新的な教育を推進していきます。このため、ICT教育環境を整え指導者を配置するとともに、学校の授業だけでなく、放課後、自宅など様々な「学びの場」を提供できる環境づくりを進めていきます。	D	C	三小に続き、一小・二小にICT環境の整備ができたため。	今年度一小・二小にタブレット端末を使ったICT環境の整備を行いました。KPIの調査が4月のため数値的には前年度の数値とあまり変化しませんでした。しかし教職員に対する調査では、「自分の考えを相手にしっかり伝えることができている」「話し合いの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という項目で、ほぼ100%できているという回答となりました。今年度は、教職員を対象とした研修を開催するとともに、ICT機器を使った公開授業を実施し、活用の促進を図っていきます。	教育総務課
		「コンピュータ等を活用して子ども同士が教え合い学び合う学習や課題発見・解決型の指導を行ったか」の項目の「どちらかといえば行った」以上の割合	H27	33%	33%	33%	100%						
4	住宅団地型既存住宅流通促進モデル事業の継続	空家の売買と賃貸戸数(総数) (パナホーム株式会社調べ)	H27	5戸/年	0戸/年	3戸/年	20戸/年	空家の利活用による転入や定住を図るためパナホーム株式会社のモデル事業(売買や賃貸に対するリフォーム費用の支援)を町全体に広げていきます。	D	C	町内物件対象に住宅診断(インスペクション)サービスを実施したことも功を奏して、空き家の利活用の件数が増えたため。	河合町とパナホーム株式会社は河合町で課題となっている人口減少、少子高齢化、空き家の増加に対し適切な対策を講じるため平成26年6月18日に協定を締結しました。この活動を「かわいい浪漫プロジェクト」と呼び、その一環としてパナホーム株式会社は、既存住宅の活用・流通の促進を図るための活動を町と協働で取り組んでいます。町民の認知度も広がりつつあり、今後も、この取組みは継続し空き家の利活用促進を図っていきます。	政策調整課

番号	重点施策	重要業績評価指数(KPI)	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値	施策概要	自己評価		自己評価の推移の理由	H29取組状況 (町の考え等)	担当課
			H28	H29									
5	たんぼの楽耕(荒廃農地活用事業)	交流・参加者	H27	33人	50人	50人	50人	町内の遊休農地を活用し、土に触れて農業体験活動を行える場として、荒廃農地を利活用し、新規就農者を育成することで、荒廃農地の解消を図るとともに、町民交流と生きがい対策の場として提供します。	A	A	参加者に好評で昨年度と同様にKPIを達成したため。	農業交流については、一般コースや独立畑コースや本格的な米コースの3つのコースを通して順調に進んでいます。また、新規就農者は、これまでの1名に加えて独立畑コースより今年度1名就農しました。平成29年度は、新規に耕作放棄地1,573㎡を追加して活動しました。また、特産品開発として、パイアを栽培し、学校給食のレシピ開発に協力し、秋の産直市で展示を行い周知を図りました。平成30年度について、事業内容を見直ししながら、引き続き実施します。	地域活性課
6	子育て親子の集いの場「絵本図書館」と既存図書館の充実	絵本図書館利用者	-	-	-	70人	1,500人/年	出産を控えた母親、乳幼児を育てている方を対象とした育児書や絵本等の関連図書を整備し、これらの方々が気軽に集い交流できる場として、豆山の郷に絵本図書館を設ける。併せて、子育てを経験されたシニア層が参画することで交流だけでなく相談できる場とする。	E	D	豆山の郷で絵本図書館設置に向けた新規ソフト3事業を開催しましたが、PR不足で予定より参加人数が少なかったため。既存図書館の来館者数については、貸出人数が減ったため。	今年度の新規事業として、「絵本図書館」設置に向けて、豆山の郷ではおはなし会・おはなしとえほんの講座・えほんのひろばを開催しました。継続、レベルアップ事業として、図書館からの団体貸出冊数を増やしたり、寄贈本の提供、寄贈の周知をし、少しずつですが絵本の冊数も増えており、利用者も昨年度に比べ増加しています。今後は、新規図書の購入とともに、継続して事業の展開を考えています。既存図書館の利用者については、引き続き、事業の開催等、利用者増加に向けて取り組んでいきます。	生涯学習課 高齢福祉課
		既存図書館利用者	H26	23,015人/年	24,265人/年	23,330人/年	27,600人/年	既存図書館においては、赤ちゃん絵本講座や絵本読み聞かせ会等を開催し、両施設の機能・役割分担で子育て層が孤立することなく意欲的に子育てに勤しむための環境を整えるほか、児童生徒を始め若者世代が訪れたいと思える環境を整えます。					
7	町内転居者支援事業(定住促進)	転出者数	H26	618人/年	562人/年	537人/年	600人/年	町内定住を促進するために、町内における住み替え(新築)に対する支援を行います。	E	E	現在に至っても地方創生交付金の対象となる見込みが無い為、町単独での実施は困難のため。	町内転居者に対し固定資産税の一定割合を振興券により補助する事業について、国の交付金の対象とならないことが明確となったことから、町単独での実施が不可避となりましたが、本事業の実施による定住者の増加効果が明確に見込めない中、町単独での実施は財政負担が大きく、実施は困難と考えます。今後、交付金の対象となる等の見直しがあれば再度検討をしたいと考えます。	税務課 地域活性課

# 目標2 絆 —絆でつながる河合町になって欲しい—

《施策の進捗状況》  
 A: KPIは既に達成  
 B: 順調  
 C: やや遅れている  
 D: 遅れている  
 E: 施策の見直し



数値目標	指標項目	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値
	自治会加入率	H27	90%	90%	90%	89%

番号	重点施策	重要業績評価指数(KPI)	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値	施策概要	自己評価		自己評価の推移の理由	H29取組状況 (町の考え等)	担当課
			H28	H29									
1	河合ふるさとの日「夏」	河合ふるさとの日イベント参加者数	H27	約3,000人	約2,000人	約2,000人	約3,600人	これまでは、8月第3土曜日を「河合ふるさとの日」と定め、河合町ふるさと祭りをメインに、町民プール・総合福祉会館「豆山の郷」の浴場を無料開放し、豆山の郷夏休みこども祭りを同時に開催してきました。 これを、転出した第2世代と「外孫」の帰省の時期に合わせてお盆の時期に固定開催し、更に充実するために内容を検討し、集客を図るとともに、町から離れて暮らす人々が町の魅力を再認識する場とし、ふるさと回帰の契機と移住・定住を促進します。 検討・企画・実施にあたっては官民が一体となって取り組みます。	B	B	開催日は悪天候であったが、恒例になりつつあるふるさと祭りの打ち上げ花火の効果で大きな参加者数減とならなかったため。	河合町外へ転出した第2世代と「外孫」の帰省の時期に合わせ、平成28年度からお盆の時期である8月15日に固定開催しております。 官民が連携して企画運営し従来型の、ふるさと祭り・かわい燈花絵・豆山の郷浴場開放・町民プール開放・なつやすみ子ども祭り(社会福祉協議会)・三世代家族対抗ボウリング大会すな丸杯(商工会)に加え、昨年度より、まほろばホールでの音楽イベント、ふるさと祭りでは商工会青年部による打ち上げ花火や官民連携によるすな丸スタンプラリーを開催しております。今年度はあいにくの雨天であったことから昨年度程の来場者数とはなりませんでしたが、打ち上げ花火等イベントは好評でした。尚、打ち上げ花火の実施に際し、早い段階からの実施計画(警察の許認可)を検討する必要があり、更なる官民連携の充実した取り組みが必要であります。	政策調整課
2	河合ふるさとの日「冬」	来場者数	-	-	約2,000人	約2,000人	約3,000人	新たに、「冬」にも『河合ふるさとの日「夏」』と同趣旨のイベントを実施し、移住・定住を促進する機会としていきます。	B	B	今年度は2回目の開催で、内容や運営も1回目より向上しましたが、まだまだ町民全体に認知が及んでいないことも原因で目標値までの来場者とはならなかったため。	河合ふるさとの日「夏」と同様の趣旨として平成28年度から西大和ニュータウン内でイベントを開催しております。 内容は、音楽イベントを始め、製作・体験コーナー、昔遊び体験コーナー、燈花会やすな丸イルミネーションなどの催しが行われ多くの人で賑わいました。2回目の開催で、改善点も見受けられましたが、今後もブラッシュアップし更なる来場者の増加も呼び込みつつ「ふるさと回帰」に繋がるイベントとして実施していきます。	政策調整課
3	福祉のワンストップサービス(スーパー包括支援センター)	相談件数	H26	285件/年	623件/年	528件/年	356件/年	域包括支援センターは、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等を配置して、町民の健康や生活の安定のために必要な援助を行う場です。 福祉のワンストップサービスは、包括支援センターの業務を拡充し、福祉に関わる様々な相談や手続きなどについてワンストップで対応するものです。	A	A	相談者に好評で昨年度と同様にKPIが達成したため。	ワンストップサービスとは、地域包括支援センターだけでなく全ての相談を解決するものではありません。相談は、介護や高齢者だけの相談だけでなく、障がい者福祉や生活相談、認知症の問題など多岐に渡る問題を包括的に据え専門の担当課などにつなげて、一緒に問題解決にあたっていきます。	高齢福祉課
4	子育てサロン充実事業	参加者数	-	-	270人/年	252人/年	260人/年	子育てサロンは、育児に悩み孤立することのないよう、サロン活動をとおして、育児・健康に関する情報の共有や交流を図る場として充実を図っていきます。また、育児や子育てを終えた世代の知恵などを役立てるために、多様な世代が気軽に参加できる場、活気のある子育て支援の場をつくっていきます。	B	B	事業としては好評であるが、全体的に子育て世代が減少しているため。	平成29年度は、体力アップのサロンを月2回実施しています。母親の健康が家族の笑顔へ導いていきます。ただ、最近では出生率の減少で親子の全体数が減少しており、来年度からは、実施方法を変更していく予定です。	保健スポーツ課

番号	重点施策	重要業績評価指数(KPI)	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値	施策概要	自己評価		自己評価の推移の理由	H29取組状況 (町の考え等)	担当課
			H28	H29									
5	同窓会応援します事業	応援支援利用者数	H26	2件	1件	3件	6件	町内の小中高校の同窓会の開催を促し、これを支援します。特に中学校の「30歳同窓会」の開催を積極的に支援し、ふるさと回帰の契機と移住・定住を考えるきっかけづくりとしていきます。	C	C	件数は増えたが、目標値達成まで更なるプロモーションが必要のため。	平成8年度の第二中学校卒業生が平成23年度に開催したことが契機となり、30歳記念同窓会が継続しています。そこで、平成26年度から、町の新たなブランドとして、30歳記念同窓会がこれからも継続して開催されるよう通信費で支援をしています。今年度12月現在では平成14年度の第一、第二中学校卒業生の30歳記念同窓会を支援をします。また別に、昭和49年度河合中学校卒業生同窓会も町広報紙に掲載し呼びかけの支援を行いました。	政策調整課

# 目標3 誇り —誇りを持てる河合町になって欲しい—

《施策の進捗状況》

- A: KPIは既に達成
- B: 順調
- C: やや遅れている
- D: 遅れている
- E: 施策の見直し



数値目標	指標項目	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値
	河合町に住み続けたい人の割合 (街再生に関するアンケート結果)	H27	76%	-	-	80%

番号	重点施策	重要業績評価指数(KPI)	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値	施策概要	自己評価		自己評価の推移の理由	H29取組状況 (町の考え等)	担当課
			H28	H29									
1	近鉄3駅ホームにポスター掲示板的設置	ポスター掲示内容(種類)数	-	-	13種類/年	22種類/年	24種類/年	町内の近鉄田原本線の3駅舎にポスター掲示板を設置し、鉄道を利用する町内外の人々にわが町のPRを継続的にを行います。	B	B	新たな情報発信の方法として活用でき、駅ポスターを見ての反響も増えているため。	昨年度9月からの設置後、多くの方々に情報発信ができました。当該ポスターを見ての問い合わせも多数あり、今後も、町の魅力と活性化を目指し活用していきます。	政策調整課
2	近鉄池部駅の車内アナウンス	馬見丘陵公園を訪れるための近鉄池部駅利用者割合(イベント開催時)	H27	8.1%	12.8%	-	10.0%	近鉄池部駅において、到着時のアナウンスを工夫し、利用客に対し池部駅の認知を促し、より多くの利用を促進することで、活気と駅周辺の活性化を進める一助とします。	A	A	事業としては平成28年度で完結しているため。	平成28年9月に完了しており、既にKPIは達成しています。しかし、一過性のもので終わらせないためには、街再生総合戦略にその他の施策例として記述がある「馬見丘陵公園を中心としたまちづくりと活性化」が必要であると考えており、現在、具体的な検討を進めているところです。	まちづくり推進課
3	ラジオ体操の普及強化	開催場所	H26	4ヶ所	5ヶ所	6ヶ所	全ての大字自治会で1ヶ所以上	早朝のラジオ体操を地域のコミュニティ活動としてとらえ、今後とも町内各地での実施を継続し、ラジオ体操の普及に努めます。これは、健康志向の高い河合町民の特徴をとらえた施策で健康維持増進のほか、子どもの規範意識の醸成も期待できます。また、高齢化する地域社会において、毎朝の出会い、ちょっとした会話を交わすことで、安否確認や見守り活動にもつながります。	B	B	順調に事業が広がっているため。	今年度は、全国、世界へ放送される河合町平成29年度夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会を河合町では初めて実施できました。当日は、早朝雨天にもかかわらず650名の参加者がありました。終了後は、県内の市町村から実施についての問い合わせが絶えませんでした。	保健スポーツ課
4	奈良交通バス停標識に「すな丸」	町民のすな丸の認知度	-	-	-	-	75%	町内のバス停留所の標識に河合町キャラクターの「すな丸」を表示するなど、積極的に「ここは河合町」であることをPRしていきます。	B	B	事業としては平成28年度で完結しているため。	平成28年6月に完了しており、本年度の取組は特にありません。すな丸を見て、「ここは河合町である」ことを認識してもらうためには、キャラクター認知度の向上が必須であると考えることから、今後もすな丸の積極的なイベント参加などの活動を続けて行く必要があると考えています。	まちづくり推進課
5	漫画で河合のまち再現事業	事業の広がり	H27	1地区	0地区	0地区	3地区	ストーリー性を持った漫画を用いて、自分が生まれ育った地域の「昔」に興味を持ってもらう契機とし、地元への愛着を深め定住を図ります。また、子どもたちの歴史的思考力を育みます。 ※平成25年度に取り組んだ街並み再現事業(川合市場)を舞台とします。	D	D	構想段階から事業を進めることができていないため。	ストーリー性を持った漫画が記憶に残りやすいという特性を活かし、町外に出ている人たちの里ごころを刺激するとともに、子どもたちの郷土愛を育むものです。引き続き予算の確保に努めていきます。	教育総務課

# 目標4 魅力 —魅力が光る河合町になって欲しい—

《施策の進捗状況》

- A: KPIは既に達成
- B: 順調
- C: やや遅れている
- D: 遅れている
- E: 施策の見直し



数値目標	指標項目	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値
	夢ビジョン事業例の達成数	H27	27事業	64事業	87事業	100事業

番号	重点施策	重要業績評価指数(KPI)	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値	施策概要	自己評価		自己評価の推移の理由	H29取組状況 (町の考え等)	担当課
			H28	H29									
1	イオンシネマ優待券	町民のイオンシネマ来場者数	H26	24,000人/年	30,000人/年	22,000人/年	39,600人/年	イオンシネマ西大和は、周辺地域からも多数の利用者があるシネマコンプレックスとして、町民に親しまれています。 こうした不特定多数の人々が参集する娯楽施設が立地している強みを活かし、町民に対してもさらなる利用を促すことで、町民の文化思考力と家族や仲間の絆を育み、賑わいも創出し、街の魅力を高めていきます。	B	B	上映作品によって全来場者数の増減に影響はあるが、優待券販売数に関しては認知されつつあり売り上げは伸びているため。	平成28年5月からイオンシネマ優待券を西大和地区公民館(出張所)で販売しています。これは、奈良県内のシネマコンプレックス4施設の内、1施設が河合町にあるということ、またその隣に河合町施設があることを利用し、河合町とイオンシネマ西大和が協力して、街の魅力・プレミアム感を高めていくことを目的としたものです。河合町民であれば映画のサービス日以外で通常1800円の入場券が1300円の優待券として購入できます。特に子育て世代には利用価値があり、購入者の約65%が30～40代となっております。なお、昨年度と比較すると75枚多い販売実績となっております。今後も継続的に町イベント等に乗じて周知を図っていきます。	政策調整課
2	「日本史のアドバンテージあります」事業	該当事業のPRによるイベント等の参加者数	-	-	-	-	200人	河合町は、奈良県平野部のほぼ中央部、いわば“へそ”の位置に立地し、法隆寺インター～京奈和道、国道24号線を利用して、短時間で奈良県の歴史遺産に到着することができます。 河合町に住むことで、古墳時代～大和王権の成立～平城京の築造を気軽・手軽にたどることができ、日本史の教科書の上を歩くあるいは住んでいるような体感を得ることができ、奈良県の歴史遺産を“町の財産”と捉えることができます。 また、こうした立地条件を前面に押し出し、イベントの企画や空き家を活用したおためし入居なども実施し、河合町の魅力をPRしていくことで、移住者の確保につなげることが期待できます。	D	D	移住定住を目的とした町パンフレットに本内容について掲載してPRしているに留まっているため。	河合町の立地を活かして、奈良の歴史遺産ツアーやイベントなどを実施し、河合町に来てもらう、また滞在してもらうことが重要です。町単独でのツアー以外に、北葛城郡4町共同で実施している「すむ・奈良・ほっかつ！」移住プロジェクトにおいても域内ツアーを計画していますので、本趣旨に合うような行程を組んでいきます。	政策調整課
3	西大和学園主催公開講座	西大和学園の教師による講座実施回数	-	-	1回/年	2回/年	5回/年	町内にある全国的に知られる進学校、西大和学園主催の公開講座を町が後援し、また、小学生・保護者を対象としたテーマの町主催の学習講座に西大和学園の教師を招くなど、西大和学園と連携し、町と学園がともに発展するよう、互いにサポートします。	D	D	各イベントへの生徒の参加については実施出来たが、教師を招いた学習会等については実施に至らなかったため。	西大和学園の教師を招いての小学生や保護者を対象にした学習講座等については、町民大学のメニューに取り入れることで調整しています。今年度は生徒達に11月11、12日の国民文化祭へボランティアで参加し、12月23日のかわいふるさとの日「冬」において赤田池公園並びにメイン会場ステージでの吹奏楽の演奏などを行いました。	生涯学習課

番号	重点施策	重要業績評価指数(KPI)	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値	施策概要	自己評価		自己評価の推移の理由	H29取組状況 (町の考え等)	担当課
			H28	H29									
4	自治会ニュースコンクール	参加自治会数	H26	29団体	37団体	23団体	60団体	自治会ニュース、自治会新聞は地域の住民をつなぐ重要なツールです。平成23年度から河合町在住者が中心となって始めた本コンクールは、多方面からの支援を受け奈良県全域を対象とする規模に発展しました。この河合ブランドを今後も積極的に支援していきます。	B	C	年々参加団体は増加傾向であったが、今回は前回参加団体が継続しての参加が少なく、減少となったため。	平成23年度に、生駒郡、北葛城郡を対象に全国的にも例のない自治会ニュースコンクールを開催し「好ましいニュースの姿」を探ったところ、それぞれの自治会が自らのニュースの作り方を見つめ直す機会にも繋がり、大きな成果を上げています。平成26年度からは奈良県内の市町村を対象とした、全県的なコンクールとして開催しており、前年度は過去最高の参加団体数となりました。これは、継続的に周知してきたため、町内外の各自治会にも認識され始めてきた結果であると考えています。将来的には、奈良県内だけでなく近畿圏内にも対象範囲を広げていくことも視野に入れています。	政策調整課
5	河合のまち貸します/あなたの企画買います事業	採択事業数	H26	3件	1件	2件	6件	若者が町内で企画するイベントに対し公共施設を無償で貸し出す制度はマスコミからも高い評価を受けました。今後もこの制度を更に充実させ、若者が河合を知る、河合に来る機会とします。さらにユニークな企画については費用の一部を支援します。	C	C	広報紙以外でもSNS等を活用した情報発信はしているが、まだまだ若者が関心を持ってもらえるまでに至っていないため。	今年度の現時点では、2件(まち貸します事業1件、企画買います事業1件)採択をしました。他市町村にはない、河合ブランドの事業ですので、町内外の住民のアイデアを生かして、若者が河合町に来る契機となるイベントに対しては支援を続けていきます。	政策調整課

# 目標5 自立 —地域主権確立のために—

《施策の進捗状況》

- A: KPIは既に達成
- B: 順調
- C: やや遅れている
- D: 遅れている
- E: 施策の見直し



数値目標	指標項目	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値
	夢ビジョン事業例	H26	285事業	399事業	423事業	400事業

番号	重点施策	重要業績評価指数(KPI)	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値	施策概要	自己評価		自己評価の推移の理由	H29取組状況 (町の考え等)	担当課
			H28	H29									
1	街再生総合戦略推進体制① (所管体制)	所管人員	H27	3人	3人	3人	3人	街再生総合戦略を具体的に進めていくために、庁内の人的配置や所管業務体制の充実を図り、街再生を推進していきます。	A	A	人員配置について、KPIは既に達成されているため。	企画部次長(政策調整課長兼務)、同課調整員(係長)、同課主事を主として、サブ的に街再生推進アドバイザー(元毎日新聞社論説委員)に街再生総合戦略の方向性などの意見を聴きながら、管理運営をしています。出来る限り、国の地方創生交付金を活用し総合戦略施策を展開していきます。	政策調整課
2	街再生総合戦略推進体制② (移住定住促進等相談窓口の設置)	移住相談窓口利用者数 (パナホーム株式会社調べ)	H27	106人/年	252人/年	195人/年	200人/年	河合町への移住・定住促進の相談窓口を設置し、イベントの実施、情報発信(ホームページ・SNSなど)を行う他、移住・定住のためのサポートを行います。	B	C	昨年度まで年に数回開催していた、「暮らしの実になるミニセミナー」がセンター移転により面積が狭くなり開催出来なかったことも一因で相談者数が減少したため。	平成27年4月18日に、住まい全般のワンストップ相談窓口「暮らしのご相談センター」をイオン西大和店に河合町とパナホームとで協働設置運営しています。河合町に高齢者世帯が多いため住宅の利活用への関心や、子世代との近居・同居への関心が高まりつつある中、パナホームと協働で総合相談センターを運営することで、民間企業のノウハウや強みを活かし、移住定住相談のみならず、住宅相談、住生活全般の相談などワンストップで対応できるため今後も官民の役割分担を明確にし継続していきます。	政策調整課
3	街再生総合戦略推進体制③ (ホームページ改修)	ホームページ年間アクセス数	H26	298,000件/年	350,476件/年	236,031件/年	330,000件/年	街再生総合戦略の周知と各種の情報交換を図るために、利用しやすく、見やすい町のホームページにしています。	B	C	各公共機関がセキュリティ強化によるインターネット使用可の端末が減少したことも一因で減少となったため。	平成28年12月28日より町ホームページのトップ画面に「移住定住サイト」を追加し、リニューアルしました。これは、例えば、シニア層は自分が活躍できる場の情報など、子育て世代は教育や保育環境以外に地域交流の場の情報など、年代やライフスタイルによって知りたい情報は様々であることが、アンケート調査などの結果で判明しました。このことを反映した「移住定住サイト」を今後も更に見やすく、知りたい情報をすぐに得ていただけるよう充実させていきます。	政策調整課
4	街再生総合戦略推進体制④ (空き家利用促進キャンペーン等)	空き家数	H26	338戸	353戸	374戸	300戸	転入者の増加や空き家の利活用をさらに促進するために、期間を定めて特別企画を実施し、更なる支援を行います。	D	D	現状では町へ空き家利活用についての相談があった場合、暮らしのご相談センターへ案内しているに留まっているため。	空き家利用促進キャンペーン期間中に空き家を賃貸・売買された方、また借りる・購入される方を対象として町からの特典を贈ることを想定しています。特典の財源にも国の地方創生交付金を活用しようと考えていましたが、個人給付にあたるものは対象外となりましたので、本企画に対してはどのような支援策が最良かを検討していきます。	政策調整課
5	街再生総合戦略推進体制⑤ (空き家利用促進: 空き家貸します)	事業実施数	-	-	-	-	5事業	未活用の空き家を借り上げ、活用方法を公募し、空き家カフェなど、公募により実施主体を決定し、再貸し出しするなど、利用を促進します。	C	C	町内でのソーシャルビジネスの可能性の広がりに、本事業が活かしきれないため。	河合町の空き家利活用や活性化などについて連携協定を結んでいる帝塚山大学の研究室のソーシャルビジネス実践場(空き家カフェなど)としての提供も含めて、本事業の募集要項(募集条件、責任分担、費用分担など)を検討する必要があります。	政策調整課



番号	重点施策	重要業績評価指数(KPI)	基準値 (総合戦略策定時)		H28実績値	H29実績値	H31目標値	施策概要	自己評価		自己評価の推移の理由	H29取組状況 (町の考え等)	担当課
			H28	H29									
6	豆山の郷の名称変更 「総合福祉会館(豆山の郷)」→「河合のいえ(豆山の郷)」	貸館利用率	H26	46%	61%	53%	55%	「福祉」の概念に捉われがちな名称である「総合福祉会館(豆山の郷)」を親しみやすく、使いやすい名称に変更し、「福祉」の枠を超えた利用を促進していきます。	B	B	利用者に好評で昨年度と同様に子供からお年寄りまで幅広い利用が順調であるため。	「豆山の郷」の貸館利用者が町内外を問わず、今後も誰でも利用しやすい「河合のいえ」を目指し、利用促進に努めていきます。	高齢福祉課
7	SNSを使った情報発信	ライン登録者数	-	-	0人	4人	200人	ネットコミュニティでの交流の場拡大を目指し、子育て情報・イベント情報などをはじめ、移住・定住に関する情報など、SNSを使った双方向型の情報発信ターミナルの整備を進めていきます。	C	C	LINE@による情報発信のプラットフォームは完成したが、情報発信の為に体制作りや発信内容の方向性の決定に時間を要しているため。	「LINE@」のテスト配信による事業検証中です。また、「Youtube」配信についても検証を開始しています。	総務課